資料４－２

令和 2 年度第 1 回知床ヒグマ対策連絡会議の対応状況

○令和 2 年度第 1 回知床ヒグマ対策連絡会議
・日　　時　令和 2 年 11 月 30 日（月）9：00～13：45
（人身事故マニュアル机上訓練）14：15～15：30
・場　　所　標津町生涯学習センターあすぱる 大ホール
・出席機関　環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町、標津町、知床財団
（人身事故マニュアル机上訓練）中標津警察署、標津消防署

○結果概要
1）2020 年度第 2 回エゾシカ・ヒグマワーキンググループ会議の資料等について
・管理計画の目標に達する 8 つの目標のうち、すでに 6 つが未達成の状況にある。
・アクションプランの各項目について、内容の整理を次期計画の改変に合わせ、今後調整していく。
・R2 年 3 町におけるヒグマ対策の現状と課題について、3 町とも R1 年から比べ、目撃件数、駆除頭数ともに低い。
・斜里・羅臼ともにごみの不法投棄が、例年よりも多く確認され、誘引された個体も確認されている。不法投棄増加の要因として、コロナの影響により、コンビニ各社のごみ箱が撤去されたことが考えられる。道の駅でも有料のごみ回収を行っているが、浸透していないようだ。今後、対策が求められる。
・ウェブ媒体を活用した情報発信は、SNS の中でもツイッターのシェアが多かった。
・R2 年から、羅臼・標津ともに自身の WEB 上で町内のヒグマ出没情報の提供を始めた。今後、3 町及び北海道のヒグマ情報 WEB との連携も含めて検討していく。

2）斜里町幌別川におけるヒグマ駆除対応事例について
・R2.8.24 に斜里町岩尾別地区において発生したヒグマ対応について、説明があった。
・課題として、①道路や周辺状況から、駆除に関わる各種法令基準との整合性を図るため、警察との調整が思いのほか時間がかかった。また②駆除に至るまでの原因の一つとして、幌別川河口における釣り人の問題について、改めて指摘した。
・②の対策として、R2 年に各関係者が協力して自粛依頼措置を行ったが、地元釣人有志のボランティアに支えられている部分も多くあり、継続した対応につながる対策が課題。

3）RT の動向及び羅臼町における対策の実施状況について
・R2 年は、ウトロ地区で RT の痕跡（DNA のみ）が確認されたのみ、羅臼町内での出没はなかったものの、地域住民による草刈り等が行われた。

4）国立公園内のヒグマ出没対応方針の試験的変更の評価

・銃を用いた市街地等での対応が厳しくなっていることなどから、過度の道路沿いでのヒグマ追い払い対応など、対応スタイルを試験的に変更してきた。

・結果、以前から出没から連絡までに 1 時間以上経過している通報については、対応してこなかったことなど、大きな変わりはなく、現場での混乱もあまり見受けられなかった。

5）国立公園内のヒグマ出没対応方針に関わる意識調査について

・当初、R2 年に行うとしていた意識調査は、コロナにより R3 年に実施を延期。実施に当たっては、細かい調整は必要なものの、3 町とも協力していくこととした。

・前回実施の際、対象者抽出に当たり、個人情報の取り扱いが厳しくなったことなどが問題としてあったため、事前の調整に時間がかかると考えられる。

6）知床半島春季ヒグマ人材育成事業の実施について

・アクションプランの目標の一つでもある人材育成について、R3 年から試験的実施に向けた検討を行う。実施には猟友会等との調整も必要ではあるものの、まずは知床財団とヒグマ情報センターの職員を対象とした対応連携強化を目的として、試験的に実施する方向で今後 3 町で調整していく。

7）知床ヒグマ連絡会議における事務局の委託について

・現在の事務局は各構成団体で交互に担当しているものの、人事異動などによる引継ぎの問題が依然として残る。そこで、実質資料作成や調整に動いている知床財団へ、事務局の一部を委託できないか。

・斜里、羅臼両町と知床財団は、通常の委託業務の中に会議等の準備が含まれているものの、その他の関係団体とはない。

・今後の円滑な事務局運営には、ある程度常に内容を把握していることが求められるため、財団への委託も方法としては検討の余地があるものの、予算等課題も残る。

8）ヒグマ人身事故発生時の対応方針について

・これまでメール等により調整を図ってきた人身事故マニュアルについて、関係者間で承認された。

・この後、中標津警察及び標津消防署を含めたマニュアルの机上訓練が行われ、実際に人身事故が発生したときの流れや関係者間で起こりうる課題や解決方法などを確認することができた。

・次回以降の机上訓練の実施について、関係者間で承諾を得た。

斜里町報告

知床ディスタンス！キャンペーンの実施結果について

● 実施概要

「ニンゲンもクマも距離感が大切」をテーマに、知床での野生動物との正しい付き合い方やヒグマを見ても車から降りないことを伝え、野生動物との軋轢やヒグマとの人身事故等を防止することを目的とした普及啓発活動「知床ディスタンス！キャンペーン」を７月より開始した。

● 実施主体

・適正利用エコツーリズム検討会議 カムイワッカ部会（主催）
・カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会（連携協力）
・ヒグマ対策連絡会議（連携協力）

● 実施内容

１）ディスタンスカードの配布（７月～）

・ ビジター施設でのカード配布

知床世界遺産センター・知床自然センター・知床五湖フィールドハウス・羅臼ビジターセンター・ルサフィールドハウスの来館者や関連映像作品の視聴者へカードの配布を行っている。

・ イベント等でのカードの配布

８月カムイワッカ地区マイカー規制期間や１０月知床オータムバスデイズイベント期間中、シャトルバス利用者へカードや普及啓発ステッカー等の配布を行った。

また、シャトルバス車内では地元ネイチャーガイドによる自然解説やキャンペーンの紹介などを含む野生動物の普及啓発が行われた。

シャトルバス利用者へのディスタンスカードの配布（知床オータムバスデイズ）

2）その他普及啓発物の配布・掲示（７月～）

・ キャンペーンチラシの配布、ポスターの掲示

ビジター施設や道の駅・宿泊施設といった観光関係施設にチラシやポスターを設置し、キャンペーンやディスタンスカードの周知を行っている。

キャンペーンチラシ

キャンペーンポスター

・ キャンペーン関連映像の上映

ビジター施設や道の駅にてキャンペーンに関連した映像を上映しキャンペーンの周知や野生動物の普及啓発を行っている。

キャンペーン関連映像を視聴する利用者（知床五湖フィールドハウス）

３）Web サイトや SNS での情報発信（７月～）

・ Web サイトでの情報発信

知床のヒグマ情報を取り扱うポータルサイト「知床のひぐま」にキャンペーン情報や関連映像を掲載し、普及啓発やディスタンスカードの周知を行っている。

知床のヒグマ情報 Web サイト「知床のひぐま」での情報発信

・ SNS での情報発信

各ビジター施設が運営する SNS にてキャンペーンやディスタンスカードの周知を行い、公園利用者が積極的にビジター施設でカードを入手することを促している。

４）道路電光掲示板での注意喚起（７月～１０月）

・ 国道 334 号線・道道知床公園線での注意喚起

国道 334 号線（幌別橋付近）や道道知床公園線（交点ゲート付近）の電光掲示板に「ヒグマを見ても車から降りない」といった注意喚起の文言を掲示いただいた。

ヒグマの注意喚起を促す道路電光掲示

５）普及啓発イベントの実施（９月）

・ キャンペーンイベントの実施

９月 19～22 日の４連休期間中、関係機関と連携し道の駅うとろ・シリエトクにて普及啓発イベントを開催した。道の駅来訪者へディスタンスカードや普及啓発チラシ・ステッカーなどを配布したほか、カードを用いたレクチャーやキャンペーン関連映像の上映、オリジナルカード工作体験等の催しを行った。また、9 月 21 日には斜里警察署主催の交通安全運動と連携し、観光客への呼びかけや普及啓発物の配布を行った。

ブースを設け、チラシ等配布

ステッカー

カードを使ったレクチャー

オリジナルカード作り

斜里警察署主催の秋の全国交通安全運動（一日警察署長）との連携

６）アンケート調査の実施（９，１０月）

9 月 19～22 日 4 連休と 10 月 2～4 日の知床オータムバスデイズイベント期間中、キャンペーンに関する利用者アンケート調査を北海道大学（大学院農学研究院）に実施いただいた。

調査票の配布・回収については以下の表 1 の通り

表１　調査票配布回収結果

調査月	条件	配布数	回収数	有効数	有効回収率（%）
8月郵送	マイカー規制期間（従来方式）	700	350	345	49.3
8月ウェブ	〃	498	110	110	22.1
9月	無規制期間	800	391	390	48.8
10月	マイカー規制期間（バスデイズ）	800	407	396	49.5

※11月19日現在

各調査月における配布地別の回収数は以下の表 2 の通り

表 2　配布地別回収数

	カムイワッカ湯の滝	知床自然センター	知床五湖	道の駅うとろシリエトク	岩尾別温泉行シャトルバス利用者	ふ化場ツアー参加者	ウェブ配布(8月シャトルバス利用者)	合計
8月	155	33	157	-	-	-	110	455
9月	181	11	198	-	-	-	-	390
10月	-	2	209	164	7	14	-	396
合計								1241

【アンケート調査結果速報（抜粋）】

○ディスタンスキャンペーンの情報源（9 月、10 月）

９月に実施したアンケート調査の結果

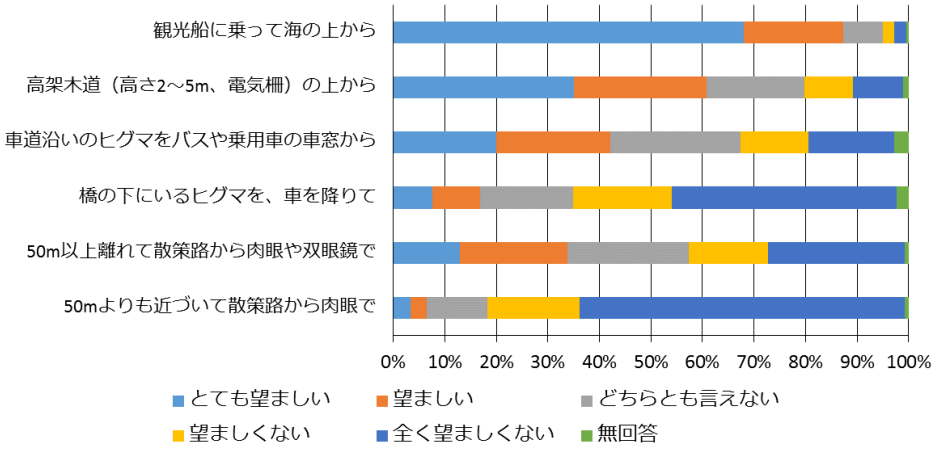
情報源	度数	利用率（%）
キャンペーンポスターの掲示	221	63.3
道路の電光掲示板の表示	117	33.5
道の駅でのイベント	104	29.8
ディスタンスカードの配布	80	22.9
WebサイトやSNSでの情報発信	77	22.1
キャンペーンチラシの配布	72	20.6
キャンペーン関連映像の上映	45	12.9
その他	36	10.3

１０月に実施したアンケート調査の結果

情報源	度数	利用率（%）
キャンペーンポスターの掲示	230	64.2
ディスタンスカードの配布	161	45.0
キャンペーンチラシの配布	142	39.7
キャンペーン関連映像の上映	93	26.0
WebサイトやSNSでの情報発信	83	23.2
その他	16	4.5

- 両月とも回答者の約 9 割がキャンペーンを認知していた。
- 各種取り組みの中で、観光関係施設に掲示しているポスターが最も認知されていた。

○ヒグマ観察の際の望ましい距離（10 月）



羅臼町報告

地域住民主体の草刈り

該当項目：住民との協働で予防策を徹底

○町内会や建設会社と共同で草刈りを実施

令和元年度のヒグマの目撃数・対応数が共に過去２番目に多く、危険な事例も発生したため、行政や知床財団による予防や対策だけでは限界の状態となっています。そこで、広域にできる予防策として、蓄積データや地域住民が懸念する場所を基に、町内会が主体となった草刈りイベントを令和２年５月 28 日（木）～7 月１日（水）の期間内で計 10 町内会（延べ参加人数 176 人）にて実施しました。さらに地域貢献活動として羅臼町内で事業している建設業者からもご協力いただきました。

※草刈りイベントは、ダイキン工業株式会社の寄付金を用いて実施しました。

写真１．草刈り実施風景写真（左：八木浜町、右：松法町）

【今後】

草刈りの効果もあり、ヒグマの対応件数は減少していることから（表１）、来年度以降も継続して草刈り及び効果検証をすることで、地域主体のヒグマ管理を推進していきます。また、草刈りの成果を町民に周知することで参加者の増加を促しながら、地域住民が自らヒグマが出没しにくい環境づくりをする町として見本となるように努めていきます。

表１．羅臼町における２カ年度のヒグマ対応件数（令和２年 11 月 25 日現在）。

	羅臼町全域	峯浜町～岬町
目撃数	182（340）	62（146）
対応件数	167（268）	85（187）
有害捕獲数	5（13）	4（12）

※（）内は令和元年度の数値

RT の動向及び羅臼町における対策の実施状況について

該当項目：科学的手法で問題個体を特定、問題個体は確率の高い手法で捕獲

○経緯

平成 30 年度及び令和元年度の 7～8 月において、屋外でつながれていた飼い犬がヒグマに食害される事件が 4 件（計 5 頭）発生しました。加害個体は、現場の糞などの遺留物の DNA から、同一個体（オス成獣）であることが判明しています。2 年間の出没場所や一連の犯行状況が類似していることを考慮して、令和 2 年度は当該個体の捕獲を試みました。

○手法

・エサ誘引式ヘアトラップを用いた銃捕獲

シカ肉などのエサによってヒグマを誘引して、有刺鉄線を用いたヘアトラップにて体毛を採取する「エサ誘引式ヘアトラップ」と「銃捕獲」を組み合わせた手法。

採取した体毛と自動撮影カメラで撮影した画像を基に個体識別を行い、対象個体の出現を確認する。対象個体が出現した場合のみ銃捕獲を実施しました。

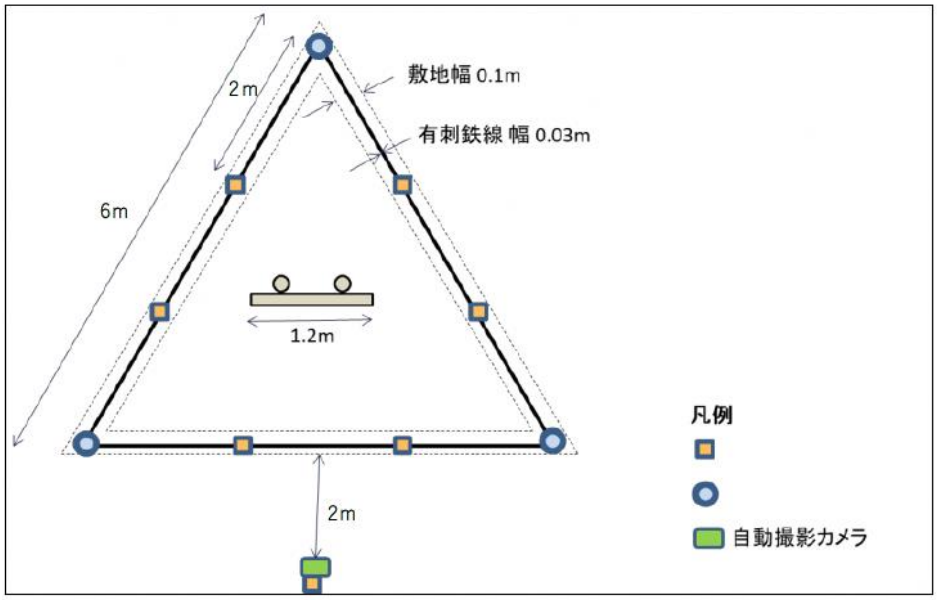


図 1．自動撮影カメラ・ヘアトラップ平面図

○結果

令和 2 年度は羅臼町内での被害発生はなく、痕跡も確認されませんでした。ただし、7 月に斜里町側の国立公園内（カムイワッカ～ルシャ間）にて、当該個体の DNA(体毛)が発見されています。当該個体はオス成獣であり、広域に移動することが予想されます。来年度も羅臼町はもちろん、斜里町や標津町でも同様な被害発生が考えられることから、各関係機関との連携を図り、対応をしていきます。

【参考】 2020 年度　羅臼町ヒグマに負けない地域づくり計画

			対策	内容
住民との協働で予防策を徹底	住民による予防	1	住民主体の草刈りイベント	ヒグマが潜むことができる草藪を地域から減らす目的で、草刈りを実施する。
		2	ヒグマとゴミ問題に関する情報発信	ヒグマを地域に寄せ付けない目的で、ゴミの管理の徹底を周知する。
		3	ヒグマとの事故防止の学習	町内のヒグマの出没状況や事故防止の対策について、知る機会を継続的に作り出す。
		4	飼い犬被害防止の注意喚起	ヒグマによる飼い犬被害を防ぐ目的で、具体的な予防策を広報する。
	町による予防	1	中心市街地電気柵の強化	羅臼町で最も人口密度が高い地域を電気柵で囲い、ヒグマの侵入防止を目指す。電気柵はefmosで遠隔監視し、適切な電圧を維持する。
		2	キキリベツ以北の電気柵の効率化	落石防護柵などの物理的な障壁が全くない3か所（キキリベツ、ルサ、昆布浜）を最優先に管理する。 【※出没実態を勘案しながら調整判断】
		3	水産加工場の電気柵普及	過去にヒグマとのトラブルが発生した水産加工場にて、新たな被害を防ぐ目的で、電気柵を活用・普及する。
科学的手法で問題個体を特定	問題ヒグマの出現確認	1	通信式自動撮影カメラによる監視（5台）	過去に「飼い犬被害に関与したヒグマ」が訪問した場所に、通信式自動撮影カメラを設置し監視する。ヒグマの出現が確認されしだい、現地調査を行い、採取した糞などからDNA分析を行って「飼い犬被害に関与したヒグマ」の出現を確認する。
		2	エサ誘引型ヘアトラップ＋自動撮影カメラによる監視	飼い犬被害が発生した地域にて、エサ誘引式ヘアトラップを設置し、採取した体毛からDNA分析を行い、「飼い犬被害に関与したヒグマ」の出現を確認する。
		3	知床半島全域ヘアトラップによる監視（総合研究推進費）	知床半島全域に一定間隔で設置したヘアトラップにより、広域において「飼い犬被害に関与したヒグマ」の出現を確認する。
	追い払い	4	威嚇・追い払い	問題個体以外の危険性が低い出没は追い払いを行う。
問題個体は確率の高い手法で捕獲	銃捕獲	1	銃捕獲	通常のヒグマの出没時に、「飼い犬被害に関与したヒグマ」の可能性がある個体のみ銃による捕獲を実施する。
		2	銃捕獲＋エサ誘引式ヘアトラップ	過去に飼い犬被害が発生した地域にて、ヒグマの誘引効果が高いエサを用いたヘアトラップによって出現個体を識別しながら、「飼い犬被害に関与したヒグマ」の可能性がある個体を確認ししだい、銃捕獲する。
		3	銃捕獲＋海獣死体誘引	海岸に漂着した海獣死体を通信式自動撮影カメラで監視し、「飼い犬被害に関与したヒグマ」の可能性がある個体を確認ししだい、銃捕獲する。 ※立ち入り者がいない場所であることが前提。
	わな捕獲	1	わな捕獲（ドラム缶タイプ）＋奥山放獣	「飼い犬被害に関与したヒグマ」が捕まった場合は捕殺。それ以外の個体は移動放獣を検討。 【検討の結果：断念】
		2	わな捕獲（鉄格子タイプ）	「飼い犬被害のに関与したヒグマ」の出現が確実な場合のみ、オリを稼働させる。対象個体が夜間のみ出現する状況など、必要性があれば稼働する。捕獲した個体はすべて捕殺となる。 ※鉄格子タイプのわなは、捕獲個体の歯や爪が傷付き野生復帰できなくなるため、一定の条件が揃わなければ使用しない前提。

資料４－２ 別紙①

知床半島ヒグマ管理計画の進め方について

本計画を科学的知見に基づき推進するため、学識経験者からなる「知床世界自然遺産地域科学委員会」及びその下に設置される「エゾシカ・ヒグマワーキンググループ」を定期的に開催し、計画の科学的な評価・助言を得る。また、管理計画に基づく各種対策を確実かつ計画的に実行するための年度ごとのアクションプランを定め、関係行政機関で組織する「知床ヒグマ対策連絡会議」において実施状況や実施結果を点検する。さらに、計画の実施について、地域の理解・協力を得るため、「知床世界自然遺産地域連絡会議」において定期的に計画の進捗や実施状況を報告する。

このほか、地域関係団体、地域住民、利用者に対しては、計画の内容について十分な広報周知を行いつつ、合意形成を図りながら本計画の対策を進めていく。

※知床半島ヒグマ管理計画「12.（３）計画の進め方」より

知床ヒグマ対策連絡会議　２回程度開催／年度

知床半島ヒグマ管理計画に基づく年度ごとのアクションプランの策定及びその実施状況等の点検を行う。また、管理計画に基づく各種対策（対ヒグマ、対人間）の具体的な内容について検討・連絡調整を行う。

・2020（令和２）年度開催状況：11/30、２～３月頃（予定）

エゾシカ・ヒグマワーキンググループ　２回程度開催／年度

知床半島ヒグマ管理計画の実施に関する科学的な評価・助言を行うとともに、その結果を科学委員会に報告する。

・2020（令和２）年度開催状況：7/28・29、12/14・15

知床世界自然遺産地域科学委員会　２回程度開催／年度

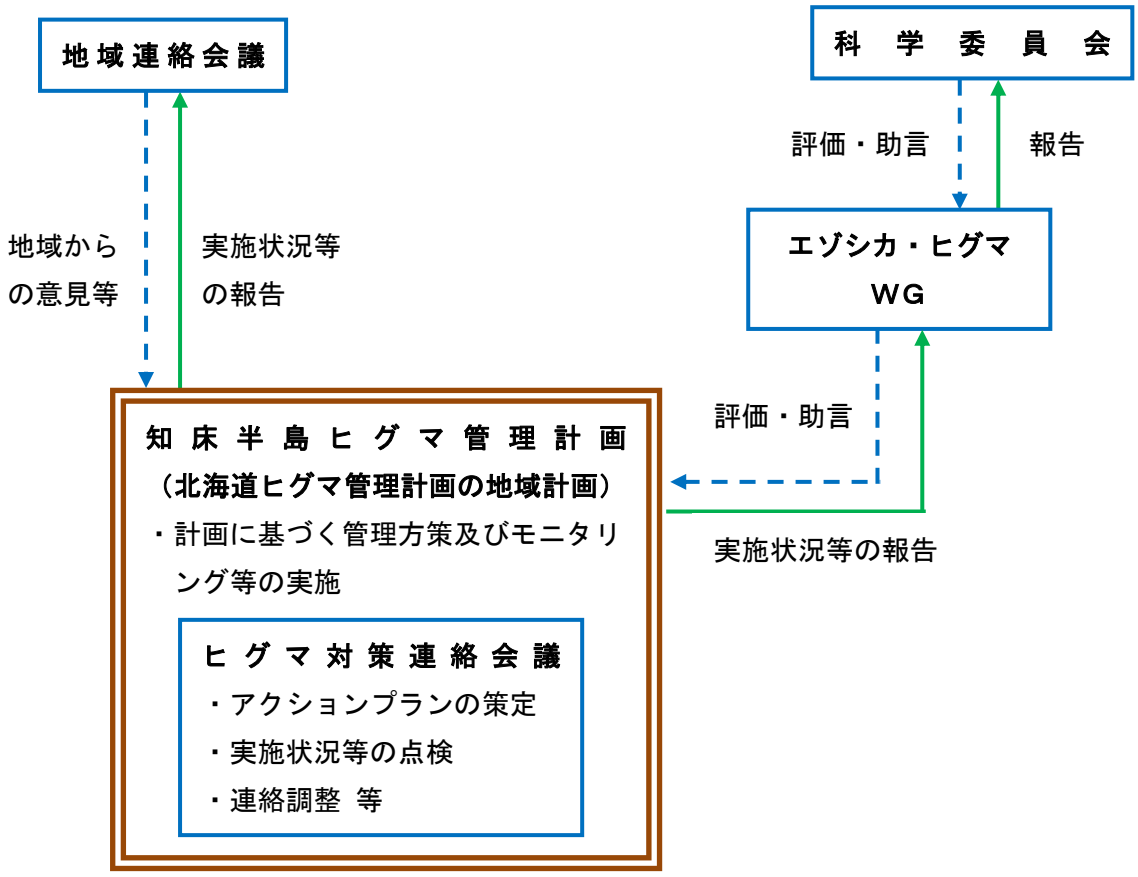
エゾシカ・ヒグマワーキンググループからの報告を受け、知床半島ヒグマ管理計画の実施に関する科学的な評価・助言を行う。

・2020（令和２）年度開催状況：8/28、3/8（予定）

知床世界自然遺産地域連絡会議　２回程度開催／年度

知床ヒグマ対策連絡会議事務局からの報告（知床半島ヒグマ管理計画の進捗や各種対策の実施状況等）を受け、地域からの意見を述べる。また、地域の理解・協力を得るために必要な議論・連絡調整等を行う。

・2020（令和２）年度開催状況：11/17、３月頃（予定）



知床半島ヒグマ管理計画の進め方（イメージ）

資料４－２ 別紙②

2020（令和 2）年度（速報版）
知床半島ヒグマ管理計画の目標に関する状況

○知床半島ヒグマ管理計画の目標の達成状況（2020 年 10 月末時点）　←―― 計画期間（2017（H29）～2021（R3）年度）――→

本計画の目標	目標値	結果 H28	H29	H30	R1	R2	R3	主な対策
①計画期間内における、斜里町、羅臼町及び標津町内でのメスヒグマの**人為的な死亡総数**の目安を75頭以下とする。（注４）	**75頭**	10頭	**21頭**	**15頭**	**14頭**	**3頭**		【平時】　誘引物の除去、侵入防止柵・電気柵の整備、居住地周辺の草刈り【方策2、6、32、35、37】 【出没時】威嚇追い払い【方策7】
	（累計）		21頭(28%)	36頭(48%)	50頭(67%)	53頭(71%)		
②計画期間内における、ヒグマによる**人身事故**をゼロとする（注４）。	**0件**	0件	**1件** (注10)	**0件**	**1件** (注10)	**0件**		【平時】　侵入防止柵・電気柵の整備、居住地周辺の草刈り【方策2、6、32、35、37】 【出没時】出没情報の提供、問題個体の捕獲【方策1、8】
	（累計）			1件	2件	2件		
③**利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数**を半減させる。	**12件**	13件	**4件**	**10件**	**17件**	**16件**		【平時】　利用者への普及啓発【方策9、10、14、23、24、S19】 【出没時】－
	（累計）			14件	31件	47件		
④**地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数**を半減させる。	**10件**	1件	**10件**	**13件**	**9件**	**2件**		【平時】　地域住民への普及啓発（情報交換会、学校での普及啓発等）【方策2、6、32、35、37】 【出没時】－
	（累計）			23件	32件	34件		
⑤**市街地（ゾーン４）への出没件数**を半減させる。	**210件**	60件	**96件**	**84件**	**136件**	**39件**		【平時】　侵入防止柵・電気柵の整備、居住地周辺の草刈り、誘引物の除去【方策2、6、32、35、37】 【出没時】威嚇追い払い、問題個体の捕獲【方策7、8】
	（累計）			180件	316件	355件		
⑥斜里町における**農業被害額及び被害面積**を３割削減する。（注５、６）	**4,652千円** **523ａ** （５年平均）	5,524千円 609ａ	8,727千円 852a	5,180千円 557ａ	6,127千円 561a	未集計		【平時】　電気柵の整備、農業者向け普及啓発【方策6、32】 【出没時】問題個体の捕獲【方策8】
⑦漁業活動（特に羅臼側の昆布番屋等）に関係する危険事例の発生件数を半減させる。	**2件**	0件	**3件**	**4件**	**1件**	**5件**		【平時】　漁業者向け普及啓発【方策32】 【出没時】威嚇追い払い、問題個体の捕獲【方策7、8】
	（累計）			7件	8件	13件		
⑧ヒグマによる人身事故を引き起こさないための知識、ヒグマに負の影響を与えずにふるまうための**知識**を地域住民や公園利用者に現状以上に**浸透させる**。	－	－	－	－	－			【平時】　普及啓発【方策9、12、14、23、32、S19】 【出没時】－

（注４）当該地域におけるヒグマの個体数に係る新たな知見が示されるなど状況に変化があった際には、その結果を踏まえ科学的な見地から人為的な死亡総数の目安について再考する。

（注５）本目標は、斜里町鳥獣被害防止計画（H27-29)より引用したもの。なおH30-R2以降の防止計画では目標を3割から1割減に下方修正している。

（注６）標津町や羅臼町においてもデントコーンや牧草ロール等に農業被害が発生しているが、被害の発生頻度や被害額は斜里町と比較して少なく、被害として計上する状況には至っていない。
したがって、目標には掲げずに被害状況を注視することとする。

（注７）③～⑧において基準とする年度及びそれらの達成状況を測るための年度については、それぞれの値の変動状況等を踏まえつつ、適切な設定を行う。

（注８）平成28年度知床半島ヒグマ保護管理方針検討会議 資料１－２から算出。

（注９）平成28年度知床半島ヒグマ保護管理方針検討会議 資料１－３、ヒグマ対応件数のゾーン別・行動段階別集計から算出。

（注１０）ハンターによる人身事故。

2020 年危険事例マップ（速報版）

2020 年 4 月から 10 月末にかけて発生した知床半島ヒグマ管理計画の目標②③④⑦の危険事例発生場所についてマップ化し、図 1 に図示した。

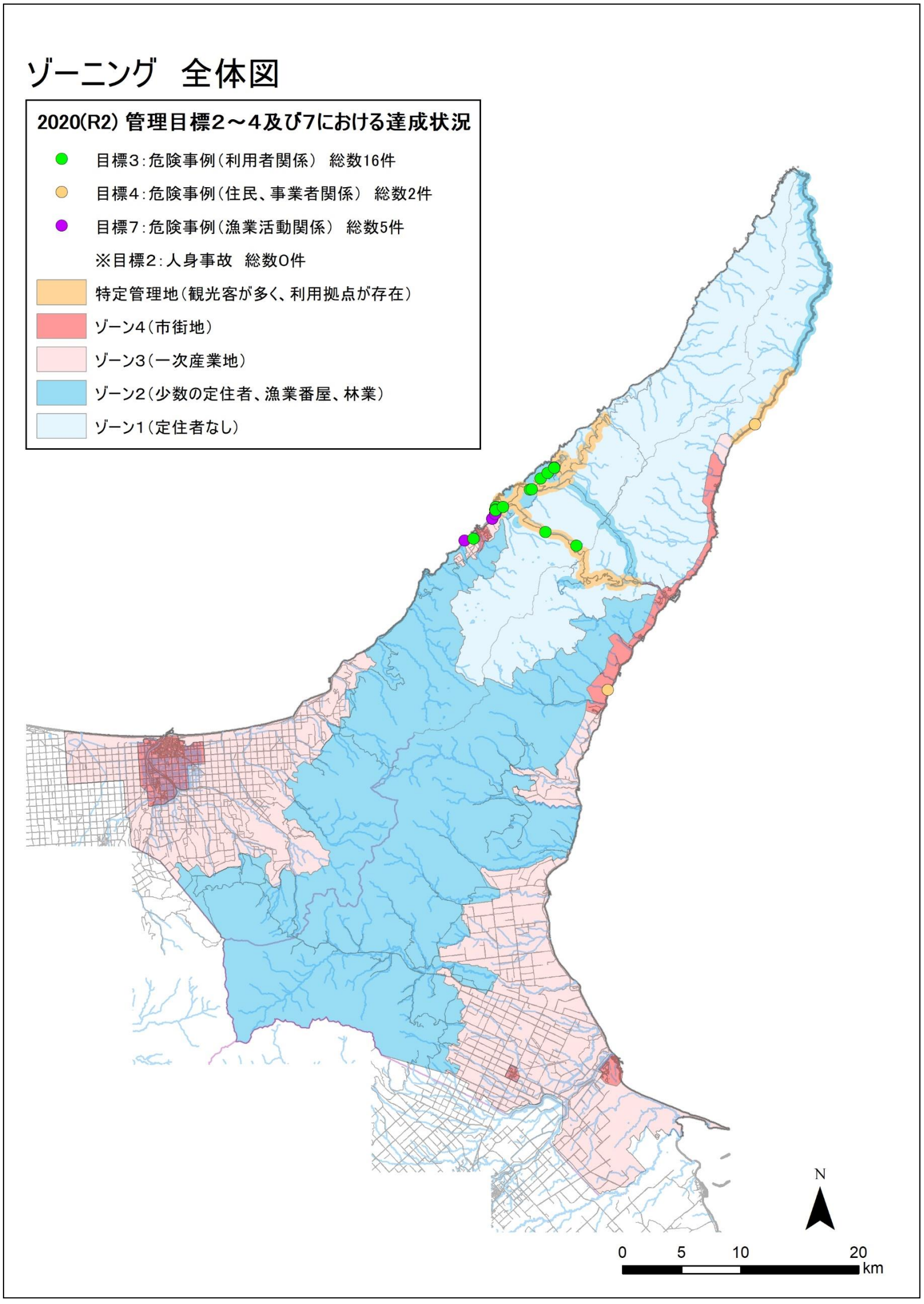


図 1. 全体図 危険事例発生場所

2020 年 4 月から 10 月末にかけて発生した知床半島ヒグマ管理計画の目標⑤の市街地(ゾーン 4)への出没があった場所についてマップ化し、図 2 に図示した。

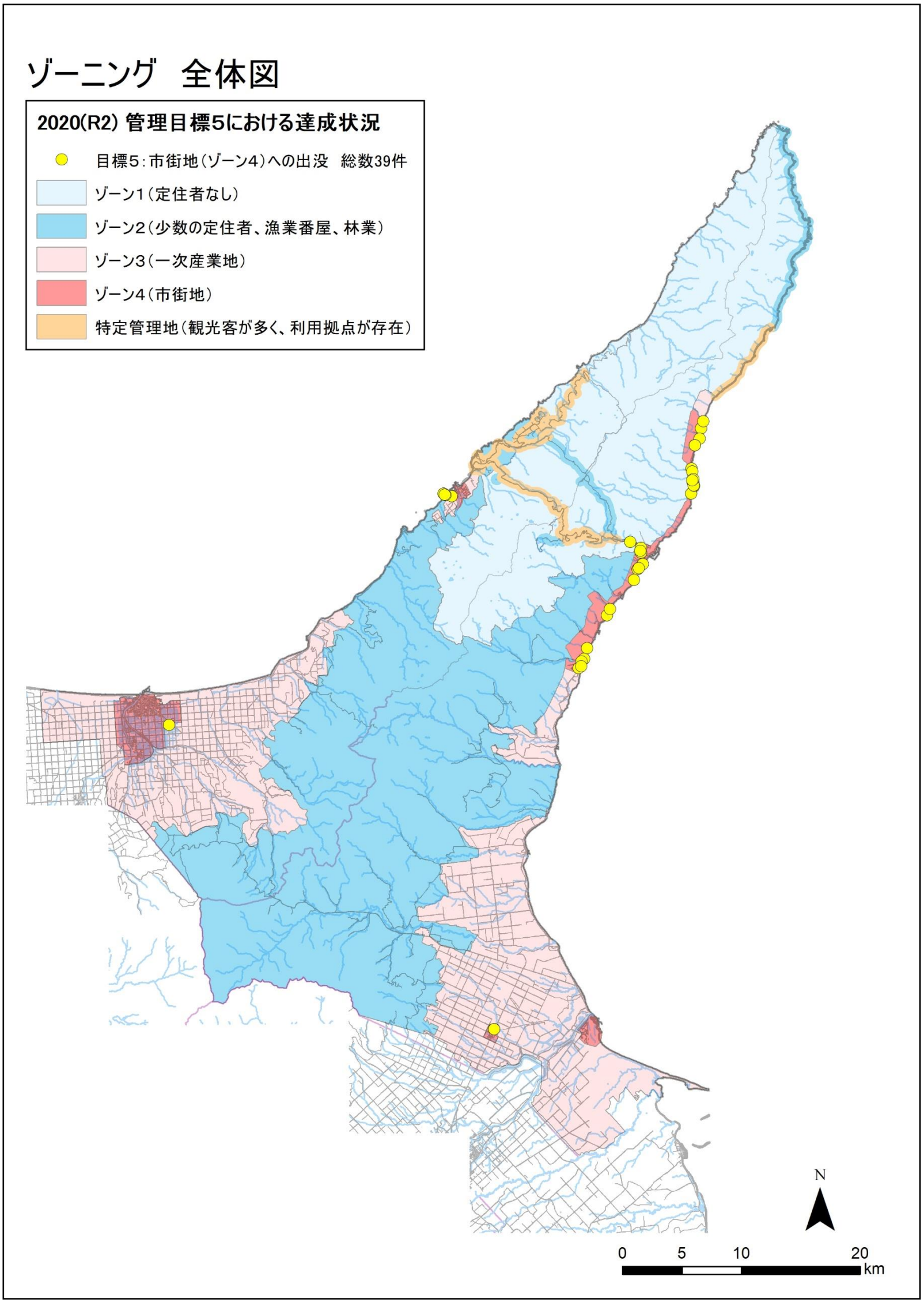


図 2. 全体図 市街地（ゾーン 4）への出没場所